3.11を忘れない
INORINO KIZUNA
祈りの絆

第 50 号　2018年12月12日 全国発送

日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会　http://www.bapren.jp

【震災募金口座】　振替　００１４０－９－１８０８８１
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

東電福島第一原発の事故処理状況　～　今なお≪安心≫には遠い福島の現状

この記事は、主に「原子力資料情報室通信」No.533（2018/11/1発行）からの情報をもとに作成しています。

2011年3月11日、東日本大震災の地震と津波によって引き起こされた事故から間もなく8年、原子炉本体については事故発生時の不安定な状況は回避されていると評価されています。しかし、今なお毎時14万ベクレルの放射性物質が放出されていること、また、使用済み燃料プール４台については、４号機のみが使用済み燃料の取り出しが完了したものの、他の３台については取り出し前の準備作業中であることを考慮すると、廃炉作業が本格的に進んでいるとは言い難い状況にあります。特に３号機については燃料取扱機にトラブルが頻発しており、燃料取り出しは大幅に遅れる見通しとのことです。

山側から海側に流れている地下水が、原子炉建屋等に流れ込み、建屋内等に溜まっている放射性物質を含む水と混ざることなどで汚染水は増加します。汚染源を**「取り除く」**、汚染源に水を**「近づけない」**、汚染水を**「漏らさない」**の3つの基本方針にそって、地下水を安定的に制御するための、**重層的な汚染水対策**を進めている（TEPCO広報）とのことです。

具体的には、凍土壁や地下水のくみ上げなどにより、建屋に流入する地下水の減少や、流出する汚染水の減少が図られ、さらに、発生した雨水や燃料冷却等で発生した汚染水は、セシウムやストロンチウムを除去した後、ＲＯ膜（逆浸透膜）や多核種除去設備（ＡＬＰＳ）でトリチウム以外の放射性核種を除去したうえでタンクに保管し続けています。（三重水素である放射性物質のトリチウムは、通常の水との化学的な差がほとんどなく分離が難しい）

敷地内に増え続けているＡＬＰＳ処理水は、現在では680基90万トンとなり、あと２年で保管場所がなくなる（2018/9/23毎日新聞）と言われています。その状況から、経産省では海洋放出や地層注入などの処分方法を検討し、富岡、郡山、東京で公聴会を開きました。公聴会ではトリチウムの安全性が強く示唆されていたにもかかわらず、参加者44人中、42名が海洋放出に反対する結果となったとのことです。

2018年1～9月までに起きた福島第一原発関連の事故は東電によって公表されているもので21件を数えます。そのうち11件が汚染水処理のためのＲＯ膜と多核種除去設備に関するものでした。汚染水は「外部流出なし」と判定されていますが、一歩間違えば周囲への汚染が再び繰り返される事態を招くと考えられます。福島に住む人たちにとっての≪安心≫には、まだまだ遠いと感じました。

（事務局長　大城戸一彦）

2018年度震災募金報告（4月～11月）　累計：250万円（目標600万円）

これからもご支援をお願いいたします。

2018年8月～年11月　募金者　44名・件（受付順、敬称略）

大村古賀島、西南学院 古賀敦子ﾁｬﾘﾃｨｺﾝｻｰﾄ、百合丘、調布、札幌、相浦光、久保祐子、筑波、若松、久保田君代、宝塚、調布、恵泉、盛岡、赤塚、福間、直方、古賀、大分、シオンの丘、西南学院高校 母の会、ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ国際日本語、丸亀城東町、調布、奈良、久保祐子、かたえ、東北連合 女性会、飯塚、目白ヶ丘、久留米荒木、高崎、ふじみ野 青年会、高知伊勢崎、平塚、船橋、川越、小樽、調布、福間、八幡、品川、府中、大村古賀島

【お知らせ】

東日本大震災直後から東日本大震災被災地支援委員として東北連合各教会の働きに伴いつつ被災者への支援活動に携わって来られた金子千嘉世師（郡山コスモス通り教会牧師）は10月20日（土）に主のもとに召されました。

ボランティア活動に参加された多くの方は、被災者に寄り添うことの大切さを示してくださっている金子師の姿が目に焼き付いておられることと思います。残されたご家族の上に主の慰めがありますようにお祈りください。東日本委員会・現地支援委員会では育まれた絆を大切にして、これからも被災地の方々に寄り添って行く所存です。（事務局）

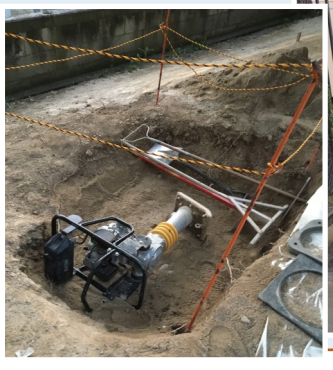
「郡山のこの頃」　高橋悦子（郡山コスモス通りキリスト教会）

私は、毎日、買い物がてら散歩に出かけます。そして四季折々に変化する、神様の造られた素晴らしい自然を満喫していました。しかし2011年の震災による原発事故以来、何気ない日常が変わっていきました。

皆さんは、「モニタリングポスト」や「マイクロシーベルト・パーアワー」という言葉を聞いた事がありますか。私は、この言葉をニュース番組の最後に流れる天気予報と共に『県内の線量測定値』として毎日に耳にしています。通学路にもなっている近所の遊歩道には大きなモニタリングポストが設置されました。震災後、何かと制約の多い生活を送らなければならないなかで、この異質で無機質な装置の前を通り過ぎる度、息の詰まるような思いをしていました。しかし、徐々に日常のなかにそれは溶け込み、安心のため、むしろなくてはならないものになっていました。

放射線量監視装置であり、常に放射線量を数字で可視化してくれるこのモニタリングポストも、2020年までに撤去される見通しのようですが、そのことによって更なる不安を抱かずにはいられない自分がいるのも確かです。

一昨年あたりから散歩する道すがら、家々に目を向けると裏庭に置かれた汚染土が徐々に姿を消し、本来あるべき姿に戻りつつあります。私の住む郡山市では毎時0.11マイクロシーベルトと放射線量も下がり続けています。（自然界から受ける国内平均の放射線量は毎時0.05マイクロシーベルト）事故直後に比べ、8割ほど減少したことになります。この様に、全く馴染みのなかった言葉や数値を意識しながら生活する日常が当たり前となってしまっていることに、この文を寄せるにあたり今更ながら気づかされ驚いています。

先日、ニュースで台湾が続けている福島県などの食品に対する輸入規制が継続される見通しになったと聞き寂しさを覚えました。しかし、私は毎日地元の美味しい新米をかみしめながら、変わらぬ神の恵みに感謝し前に進んでいきたいと強く思いました。

写真左：自宅庭汚染土掘り出し後の穴埋め作業（左）
写真右：掘り出されて排出を待つ汚染土（右）